

枚方京田辺環境施設組合
可燃ごみ広域処理施設整備事業に係る
環境影響評価準備書について

枚方京田辺環境施設組合



- 1 環境影響評価の手続
- 2 事業計画の概要
- 3 対象事業実施区域及びその周囲の概況
- 4 環境影響評価の項目
- 5 調査・予測・評価の結果
- 6 今後のスケジュール

環境影響評価
の
手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

環境影響評価の手続

3

京都府の環境影響評価手続

環境影響評価
の手続

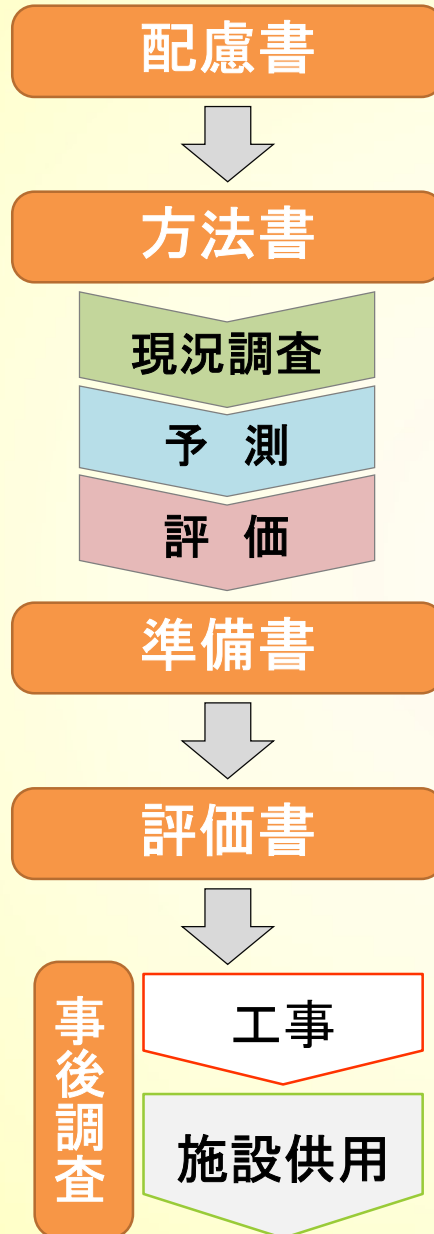
事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール



【環境影響評価(環境アセスメント)とは】

事業の実施前に、その事業が環境にどのような影響を及ぼすかについて、事前に調査、予測及び評価を行い、その結果を公表して地域住民等の意見を聴いた上で適切な環境保全対策を検討し、より良い事業計画を作り上げていくとともに、その事業の実施後の事後調査を行うための手続です。

本事業の環境影響評価手続

環境影響評価
の手続

事業計画の
概要

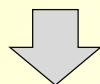
事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

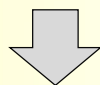
調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

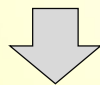
配慮書



方法書



準備書



評価書



事後調査

配慮書 平成29年4月

- ・ 計画地盤高さと、煙突高さの複数案
- ・ 各案の環境影響
(大気質・騒音・振動・景観)の予測結果

方法書 平成30年1月

- ・ 環境影響評価項目の選定
- ・ 環境影響評価の調査・予測・評価手法
- ・ 説明会、アセス専門委員会の開催

今回は

準備書

- ・ 環境影響評価の調査・予測・評価の結果
- ・ 環境保全措置の検討
- ・ 事後調査の立案

環境影響評価
の
手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

事業計画の概要

事業の背景・目的

環境影響評価
の手續

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

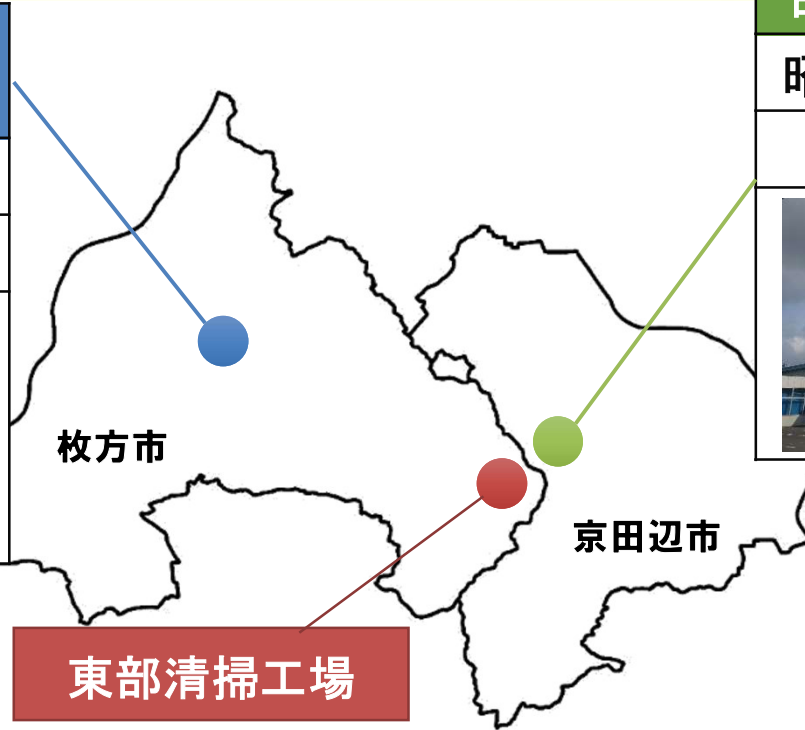
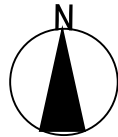
今後の
スケジュール

既存施設の概要

穂谷川清掃工場
第3プラント

昭和63年3月竣工

200 t/日



東部清掃工場

枚方市

京田辺市

環境衛生センター
甘南備園焼却施設

昭和61年12月竣工

80 t/16時間



経年的な老朽化が進行

後継施設の計画が必要

事業の背景・目的

環境影響評価
の
手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

➤ ごみの広域処理

平成26年

各市で可燃ごみの広域処理を視野に入れた
「ごみ処理施設整備基本構想」を策定

ごみ処理を両市
共同で行うことに

平成28年

「枚方京田辺環境施設組合」設立

➤ 本事業の目的

枚方市と京田辺市の
可燃ごみ広域処理施設の整備

稼働目標
令和7年度

環境影響評価
の手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

(1) 環境保全性

広域処理によるスケールメリットを最大限に生かして、信頼性の高い排ガス処理設備の導入や適切な運転管理の継続により環境保全に取り組む施設とする。

(3) 安定稼働性

トラブルが少なく、維持管理が容易で長期の耐用性に優れた設備を導入する。また、ストックマネジメントの考え方を踏まえた施設の維持管理・予防保全の計画を策定し、長寿命化に留意した施設とする。

(2) 資源循環性

単なる焼却施設とするのではなく、ごみを原料としたエネルギーセンターとして位置付け、温室効果ガスの排出量等を削減して循環型社会や低炭素社会に寄与する施設とする。

(4) 経済性

施設の設計・建設から運転・維持管理に至るまでライフサイクルコスト(LCC)の低減を意識した施設とする。

対象事業実施区域の位置

環境影響評価
の手続

事業計画の
概要

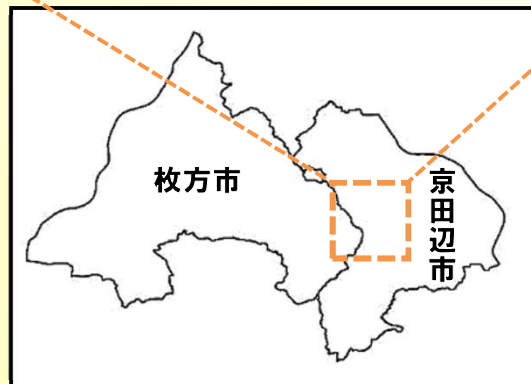
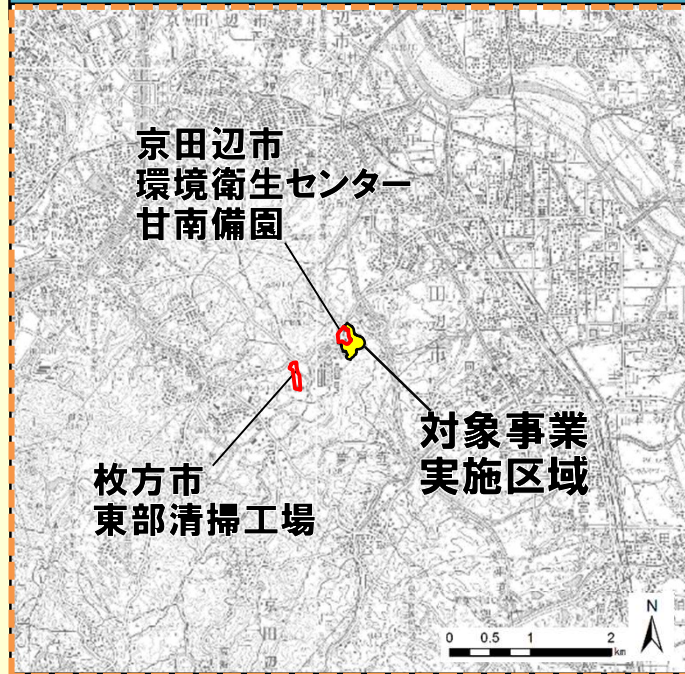
事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

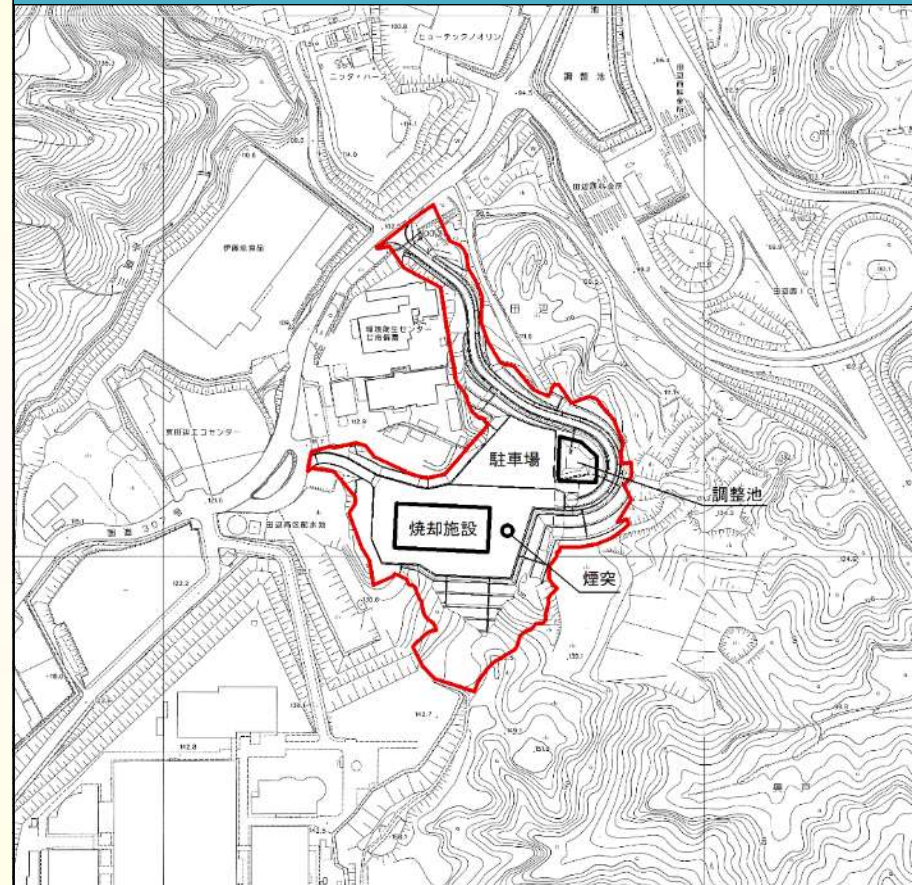
調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール




位置図



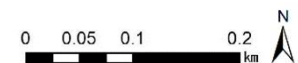
施設配置図



凡例

-  対象事業実施区域
-  処理施設工区
-  市道整備工区

注. 施設の配置はイメージであり、今後の設計により変更する場合がある。



対象事業の概要

環境影響評価
の
手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

事業者	枚方京田辺環境施設組合
事業の種類	一般廃棄物焼却施設の設置
施設の規模 (処理能力)	168t/日[7t/時間]×1炉 (可燃ごみ量(平常時) : 156t/日 災害廃棄物(可燃ごみ) : 12t/日)
位置	京都府京田辺市田辺ボケ谷、 甘南備台二丁目地内ほか
区域の面積	約50,600m ² (処理施設工区: 約35,600m ² 市道整備工区: 約15,000m ²)
計画地盤高さ	120m
煙突高さ	100m
処理方式	連続燃焼式のストーカ式焼却炉 ^{注)}
稼働開始	令和7年度(予定)

注.ストーカ式焼却炉は、ストーカ(火格子)の上に投入したごみを乾燥、燃焼、後燃焼工程に順次移送させながら燃焼させる方法である。

主な環境保全目標（大気質）

環境影響評価
の手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

関係法令による排出基準より厳しい自主基準値を設定しました。

項目	排出基準等	環境保全目標 (自主基準値)
ばいじん (g/m ³ _N)	0.04 以下	0.01以下
塩化水素 (ppm)	約430 以下 (700 mg/m ³ _N 以下)	10 以下
硫黄酸化物 (ppm)	K値 = 2.34 (数百程度)	10 以下
窒素酸化物 (ppm)	250 以下	20 以下
ダイオキシン類 (ng-TEQ/m ³ _N)	0.1 以下	0.05 以下
水銀 (μg/m ³ _N)	30 以下	30 以下

主な環境保全目標（その他）

環境影響評価
の
手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

水質

- ・生活排水及びプラント排水ともに公共用水域へは放流せず、下水道放流を行う計画である。
- ・プラント排水は、排水処理設備で適切な処理を行い、循環利用を図ることを基本とし、余剰なものについてのみ下水道放流する。
- ・京田辺市公共下水道条例の排除基準のうち排除下水量の最も多い区分に適用される基準に適合するようにする。

悪臭

- ・悪臭防止法の規制基準を遵守する。
- ・最新の技術を採用する。

騒音・振動

- ・騒音規制法及び振動規制法における工業地域の規制基準を環境保全目標とする。
- ・最新の技術を採用する。

環境影響評価
の手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

【工事中】

- 低騒音・低振動工法及び低騒音・低振動建設機械の採用
- 工事用車両等の走行の分散
- 散水等の粉じん飛散防止対策
- 調整池等の雨水対策

【供用時】

- 煙突排出ガスの法令排出基準より厳しい自主基準の遵守
- 周辺生活環境への影響の低減、回避に努めた施設設計
- 騒音、振動、悪臭防止対策として、最新技術の採用
- プラント排水の循環利用

環境影響評価
の
手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

【工事中】

- 降雨時における濁水対策
- 周辺の猛禽類の繁殖状況についての事後調査及び工事の時期や施工箇所などに配慮した環境保全措置の実施

【供用時】

- 動物・植物・生態系への影響の低減のための施設の配置、構造
- 地域景観と調和した建物、煙突（色彩、デザイン）
- 敷地内の積極的な緑化

環境影響評価
の手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

【工事中】

- 発生土の再利用の推進
- 建設副産物の発生低減や再利用の推進
- 工事用車両の高負荷運転等の防止
- 適切な工程管理と工事用車両の走行の分散

【供用時】

- プラント排水の循環利用
- 廃棄物資源化の推進、適正処理
- 焼却熱を利用した発電と余剰電力の売却、熱源としての利用
- 廃棄物運搬車両の高負荷運転等の防止
- 搬入時間帯の検討による廃棄物運搬車両の走行の分散

建設施工計画

環境影響評価
の
手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

項目 \ 期間	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
造成工事					
土木造成	■				
プラント工事					
設計		■			
施設建設			■		
試運転					■

※令和7年度稼働予定

環境影響評価
の
手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

対象事業実施区域及び その周囲の概況

対象事業実施区域及びその周囲の概況

環境影響評価
の
手続

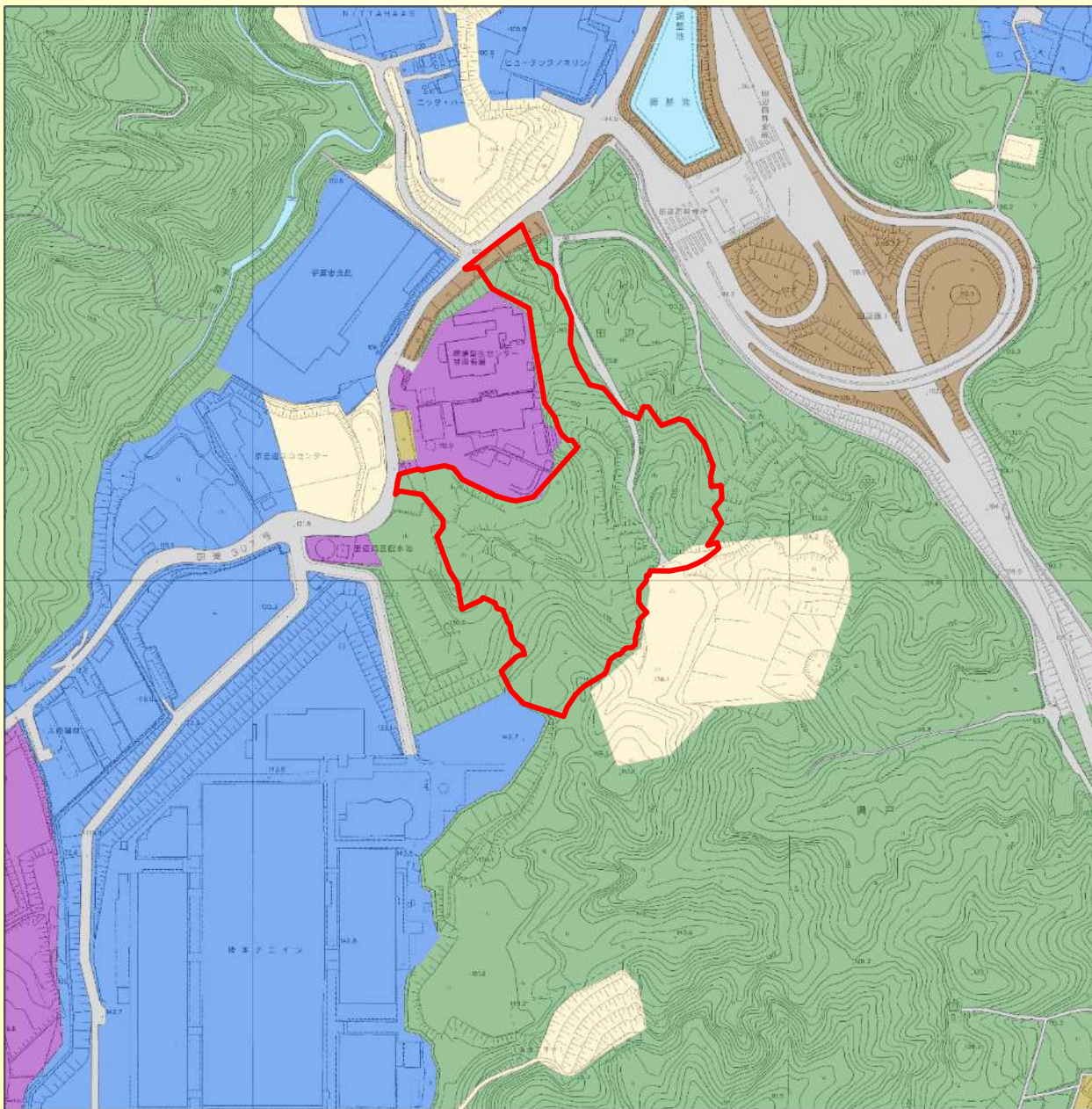
事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

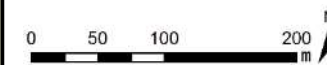
今後の
スケジュール



凡 例

対象事業実施
区域

用途	表示色
畑	
山林	
水面	
その他の自然地	
工業用地	
公益施設用地	
道路用地	
その他の空地	



出典：京田辺市・枚方市資料

環境影響評価
の
手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

環境影響評価の項目

環境影響評価
の
手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

環境影響要因

工事中



- ・ 造成等の工事による一時的な影響
- ・ 建設機械の稼働
- ・ 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行
- ・ 雨水の排水

供用時



- ・ 地形改変後の土地及び工作物の存在
- ・ 施設の稼働
- ・ 施設利用車両の運行
- ・ 廃棄物の発生

選定項目

環境影響評価
の手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

環境要素の区分	影響要因の区分	工事中				供用時			
		一時的な影響	造成等の工事による	建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に 用いる車両の運行	雨水の排水	地形改変後の土地 及び工作物の存在	施設の稼働	施設利用車両の運行
大気環境	大気質	●	●	●			●	●	
	騒音			●	●		●	●	
	超低周波音						●		
	振動			●	●		●	●	
	悪臭						●		
水環境	水質					●			
地質・ 土壤環境	地形及び地質	●							
	土壤汚染	●							
動物	重要な種・ 注目すべき生息地	●	●				●	●	
植物	重要な種及び群落	●					●		

選定項目

環境影響評価
の手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

影響要因の区分 環境要素の区分		工事中				供用時			
		一時的な影響	造成等の工事による	建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に 用いる車両の運行	雨水の排水	及び工作物の存在 地形改変後の土地	施設の稼働	施設利用車両の運行
生態系	地域を特徴づける生態系	●	●			●	●		
景観	主要な眺望点・ 景観資源・眺望景観					●			
人と自然との 触れ合いの活動の場	人と自然との触れ 合いの活動の場			●		●	●	●	
廃棄物等	廃棄物	●							●
	建設工事に伴う 副産物	●							
温室効果 ガス等	温室効果ガス		●	●			●	●	

環境影響評価
の
手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

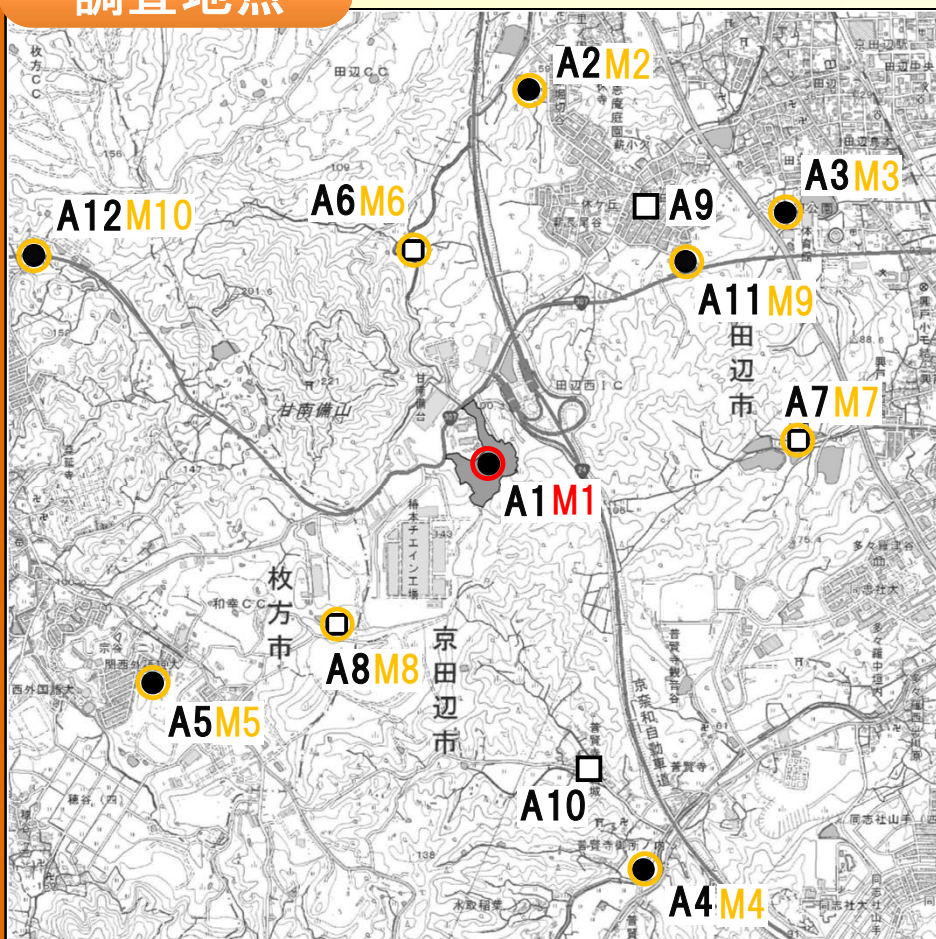
環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

調査・予測・評価の結果

調査地点



凡例

- 対象事業実施区域
- 一般環境大気質調査地点 (A1~A5)
- 沿道大気質調査地点 (浮遊粒子状物質、窒素酸化物) (A11、A12)
- 窒素酸化物 (サンプリング分析) 調査地点 (A6~A10)
- 地上気象調査地点 (風向・風速、日射量、放射収支量、気温・湿度) (M1)
- 気象調査地点 (風向・風速) (M2~M10)

0 0.25 0.5 1 km

地点	位置
A1, M1	京田辺市田辺ボケ谷地内
A2, M2	薪小学校
A3, M3	田辺公園
A4, M4	普賢寺浄水場
A5, M5	宗谷公園
A6, M6	薪斧窪
A7, M7	興戸酒屋神社公園
A8, M8	枚方市東部公園
A9	一休ヶ丘第3公園
A10	普賢寺宇頭城
A11, M9	田辺低区配水池
A12, M10	氷室低区配水場

調査結果

項目		地点	一般環境大気質					沿道環境大気質		環境基準等	
			A1	A2	A3	A4	A5	A11	A12		
二酸化硫黄 (ppm)	日平均値の 最高値		0.005	0.002	0.002	0.001	0.002	-		日平均値	0.04
	1時間値の 最高値		0.072	0.006	0.007	0.003	0.006	-		1時間値	0.1
二酸化窒素 (ppm)	日平均値の 最高値		0.030	0.021	0.022	0.016	0.020	0.031	0.032	日平均値	0.04 ~ 0.06ppm の ゾーン内またはそ れ以下
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	日平均値の 最高値		0.051	0.035	0.048	0.034	0.038	0.029	0.049	日平均値	0.10
	1時間値の 最高値		0.113	0.052	0.069	0.043	0.056	0.047	0.129	1時間値	0.20
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	年平均値		0.010	0.013	0.010	0.012	0.015	-		年平均値	0.6
塩化水素 (ppm)	年平均値		0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	-		目標 環境濃度	0.02
水銀 (μg/m ³)	年平均値		0.0046	0.0017	0.0017	0.0017	0.0019	-		年平均値	0.04
降下ばいじん (t/km ² /月)	年平均値		2.35	-			-		-		

環境影響評価
の手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

環境影響評価
の手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

工事中

造成等の工事による一時的な粉じんの影響

予測
結果

予測時期	風速5.5m/秒以上が出現した時間数		風速5.5m/秒以上が出現した日数	
	時間数(時間)	出現頻度(%)	日数(日)	出現頻度(%)
春季	0	0.0	0	0.0
夏季	7	0.3	3	3.3
秋季	4	0.2	1	1.1
冬季	0	0.0	0	0.0
年間	11	0.1	4	1.1

評価
結果

風力階級4以上(風速5.5m/秒以上)の時間数は年間11時間(0.1%)、日数は年間4日(1.1%)であり、影響の程度は小さいものとする。

保全
措置

- ・ 粉じんの飛散を防止のための**散水**
- ・ 裸地面積を減少させるための**造成法面の緑化**
- ・ 車両のタイヤ又は車体の**洗車及び清掃** 等

予測・評価：環境大気質

工事中

建設機械の稼働に伴う排出ガスの影響

環境影響評価
の手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

予測
結果

【長期平均濃度(年平均値)】

予測地点:最大着地濃度地点(敷地境界)

項目	バックグラウンド濃度	予測結果環境濃度	寄与率	日平均値注	環境保全目標値
二酸化窒素 (ppm)	0.008	0.0119	32.8%	0.027	日平均値の年間98%値が0.04~0.06ppmのゾーン内又はそれ以下
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.017	0.0176	3.4%	0.040	日平均値の2%除外値が0.10mg/m ³ 以下

注. 二酸化窒素は日平均値の年間98%値、浮遊粒子状物質は日平均値の2%除外値

評価
結果

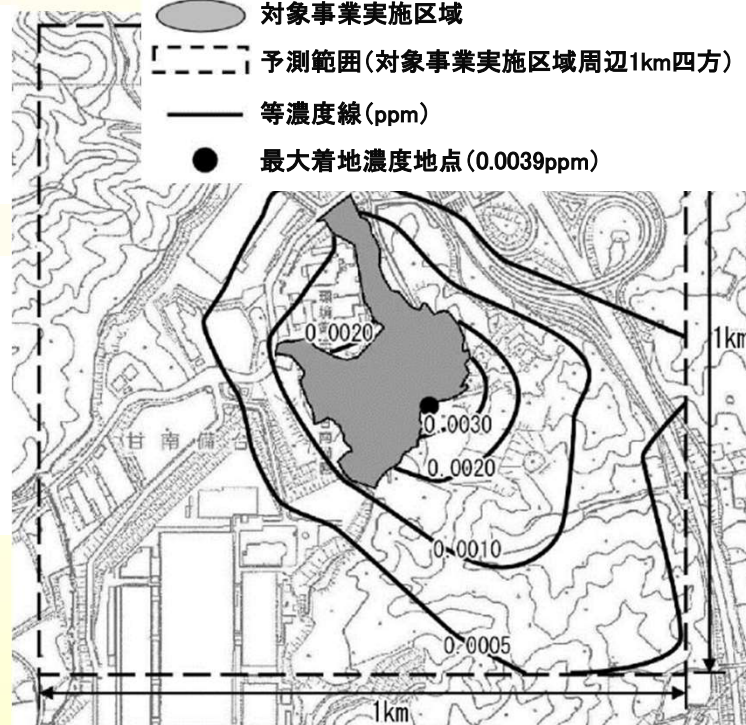
建設機械の稼働に伴う大気質への環境影響の程度は小さいものと考えられる。

保全
措置

- 最新の排出ガス対策型建設機械の使用
- 建設機械による負荷を極力少なくする施工方法や手順等による施工 等

凡例

- 対象事業実施区域
- 予測範囲(対象事業実施区域周辺1km四方)
- 等濃度線(ppm)
- 最大着地濃度地点(0.0039ppm)



建設機械の稼働に伴う大気質予測結果(二酸化窒素)

予測・評価：環境大気質

環境影響評価
の
手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

工事中

工事用車両の運行に伴う排出ガスの影響

予測
結果

【長期平均濃度(年平均値)】

予測地点：沿道大気質現地調査地点と同様の2地点

予測地点	項目	バックグラウンド濃度	予測結果環境濃度	寄与率	日平均値注	環境保全目標値	
A11	北側	二酸化窒素 (ppm)	0.008	0.010421	0.24%	0.024	日平均値の年間 98%値が0.04～ 0.06ppmのゾーン 内又はそれ以下
	南側		0.008	0.010642	0.28%		
	北側	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.019	0.019163	0.01%	0.060	
	南側		0.019	0.019177	0.01%		
A12	北側	二酸化窒素 (ppm)	0.008	0.010072	0.24%	0.024	日平均値の年間 98%値が0.04～ 0.06ppmのゾーン 内又はそれ以下
	南側		0.008	0.010115	0.26%		
	北側	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.019	0.019141	0.01%	0.060	
	南側		0.019	0.019143	0.01%		

注. 二酸化窒素は日平均値の年間98%値、浮遊粒子状物質は日平均値の2%除外値

評価
結果

工事用車両の運行に伴う大気質への環境影響の程度は小さいものと考ええる。

保全
措置

- 工事用車両が特定の時間帯に集中しないための**計画的運行管理**
- 工事用車両の**エコドライブの徹底**
- 排出ガス性能の低下を防止するための**工事用車両の整備、点検**

予測・評価：環境大気質

環境影響評価
の手続

供用時

施設の稼働に伴う煙突排出ガスの影響

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

予測結果【長期平均濃度(年平均値)】

予測地点:最大着地濃度地点

項目	バックグラウンド濃度	予測結果環境濃度	寄与率	日平均値 ^{注1}	環境保全目標値
二酸化硫黄(ppm)	0.002	0.002025	1.2%	0.006	日平均値の2%除外値が0.04ppm以下
二酸化窒素(ppm)	0.009	0.009014	0.2%	0.022	日平均値の年間98%値が0.04~0.06ppmのゾーン内又はそれ以下
浮遊粒子状物質(mg/m ³)	0.025	0.025025	0.1%	0.055	日平均値の2%除外値が0.10mg/m ³ 以下
項目	バックグラウンド濃度	予測結果環境濃度	寄与率	年平均値	環境保全目標値
ダイオキシン類(pg-TEQ/m ³)	0.015	0.015125	0.8%	0.015125	0.6pg-TEQ/m ³ 以下
水銀(μg/m ³)	0.0046	0.004675	1.6%	0.004675	0.04μg/m ³ 以下

注1. 二酸化窒素は日平均値の年間98%値、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質は日平均値の2%除外値

注2. 二酸化窒素の最大着地濃度地点は煙突から東に1,050m、そのほかの項目は950mの位置である。

【短期平均濃度(1時間値)】 ※一般的な気象条件時

項目	最大着地濃度出現距離(m)	バックグラウンド濃度	予測結果環境濃度	環境保全目標値
二酸化硫黄(ppm)	730	0.072	0.07237	0.1ppm以下
二酸化窒素(ppm)	750	0.051	0.05121	0.1~0.2ppm以下
浮遊粒子状物質(mg/m ³)	730	0.113	0.11337	0.20 mg/m ³ 以下
塩化水素(ppm)	730	0.001	0.00137	0.02ppm以下

予測・評価：環境大気質

環境影響評価
の
手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

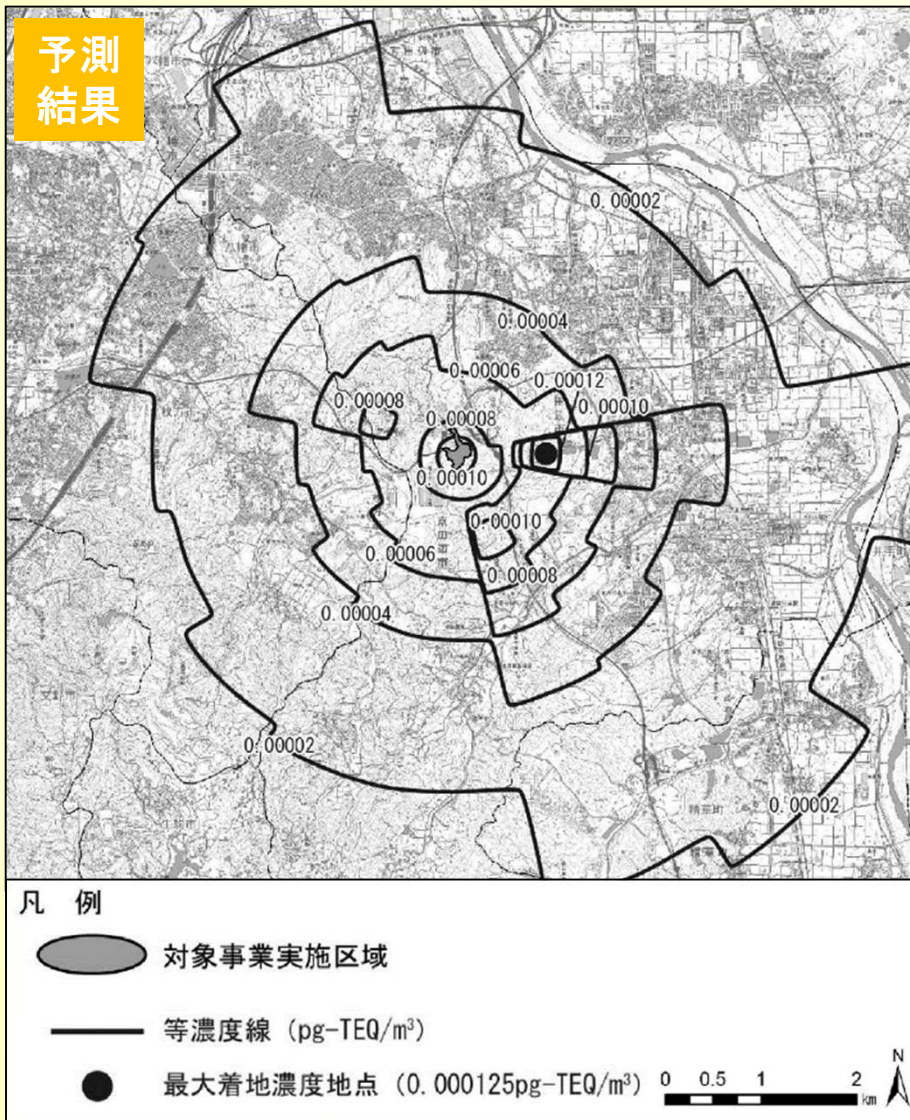
環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

供用時

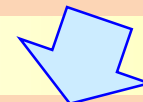
施設の稼働に伴う煙突排出ガスの影響



例)煙突排出ガスに伴う大気質予測結果(ダイオキシン類の寄与濃度)

ダイオキシン類 現地調査結果(年平均値)
(pg-TEQ/m³)

A1	対象事業実施区域	0.010
A2	薪小学校	0.013
A3	田辺公園	0.010
A4	普賢寺浄水場	0.012
A5	宗谷公園	0.015



ダイオキシン類 予測結果

最大着地濃度地点 (pg-TEQ/m³)

環境基準	0.6
予測結果	0.015125
寄与濃度	0.000125
バックグラウンド濃度*	0.015

*バックグラウンド濃度は、現地調査結果最大値

環境影響評価
の
手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

供用時

施設の稼働に伴う煙突排出ガスの影響



例)煙突排出ガスに伴う大気質予測結果(ダイオキシン類の寄与濃度)

評価結果

施設の稼働に伴う煙突排出ガスによる大気質の環境影響の程度は小さいものとする。

保全措置

- 関係法令による煙突排出ガスの**基準より厳しい自主基準値**の遵守
- 燃焼管理と排ガスの温度管理**等によるダイオキシン類発生抑制
- 硫黄酸化物及び塩化水素の有害ガス除去設備**による吸着除去
- 燃焼管理**による窒素酸化物発生抑制及び**触媒脱硝設備**による分解除去

予測・評価：環境大気質

環境影響評価
の
手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

供用時

施設利用車両の運行に伴う排出ガスの影響

予測
結果

【長期平均濃度(年平均値)】

予測地点:沿道大気質現地調査地点と同様の2地点

予測地点	項目	バックグラウンド濃度	環境濃度	寄与率	日平均値 ^注	環境保全目標値
A11	北側 二酸化窒素(ppm)	0.008	0.009527	0.17%	0.023	日平均値の年間98%値が0.04~0.06ppmのゾーン内又はそれ以下
		0.008	0.009677	0.19%		
	南側 浮遊粒子状物質(mg/m ³)	0.019	0.019082	0.01%	0.060	
		0.019	0.019089	0.01%		
A12	北側 二酸化窒素(ppm)	0.008	0.009327	0.51%	0.023	日平均値の年間98%値が0.04~0.06ppmのゾーン内又はそれ以下
		0.008	0.009362	0.57%		
	南側 浮遊粒子状物質(mg/m ³)	0.019	0.019072	0.02%	0.060	
		0.019	0.019074	0.02%		

注. 二酸化窒素は日平均値の年間98%値、浮遊粒子状物質は日平均値の2%除外値

評価
結果

施設利用車両の運行に伴う大気質への環境影響の程度は小さいもの
と考える。

保全
措置





- 施設利用車両が特定の時間帯に集中しないための**計画的運行管理**
- 施設利用車両の**エコドライブの徹底**
- 排出ガス性能の低下を防止するための**施設利用車両の整備、点検**

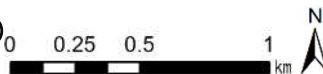
環境影響評価
の手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

調査地点



凡例

-  対象事業実施区域
-  環境騒音・振動(N1)
-  道路交通騒音・振動、地盤卓越振動数、交通量、走行速度調査地点(N2、N3)
-  関係車両の搬入路(国道307号)



調査内容

【環境騒音・振動、超低周波音】

N1 環境騒音・振動、超低周波音

2回(平日、休日)

【道路交通騒音・振動】

N2、
N3 道路交通騒音・振動、地盤卓越振動数、交通量、走行速度

2回(平日、休日)

調査結果

N2では、平日及び休日の昼夜で騒音の環境基準を上回っていた。また、N3では、平日及び休日の夜間で騒音の環境基準を上回っていた。



予測・評価：騒音・振動

工事中

建設機械の稼働に伴う騒音・振動の影響

予測
結果



評価
結果

建設機械の稼働に伴う騒音・振動の予測結果規制基準以下であり、建設機械の稼働に伴う騒音・振動の影響の程度は小さいものとする。

保全
措置

- 低騒音・低振動となる施工方法の選択、建設機械の採用
- 固定型の建設機械の敷地境界から離れた配置 等

環境影響評価
の手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

予測・評価：騒音・振動

環境影響評価
の手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

工事中

工事用車両の運行に伴う騒音・振動の影響

予測
結果

騒音	予測地点	時間 区分	現況 騒音レベル (現地調査結果) (1)	予測騒音 レベル (2)	増加量 (2)－(1)	基準値
	N2(田辺低区配水池)	昼間	72 dB	72.3 dB	0.3 dB	70 dB
	N3(氷室低区配水場)	昼間	70 dB	70.4 dB	0.4 dB	70 dB

注. 昼間は6時～22時を示す。

振動	予測地点	時間 区分	現況 振動レベル (現地調査結果) (1)	予測振動 レベル (2)	増加量 (2)－(1)	基準値
	N2(田辺低区配水池)	昼間	51 dB	51.5 dB	0.5 dB	65 dB
	N3(氷室低区配水場)	昼間	41 dB	41.5 dB	0.5 dB	65 dB

注. 昼間は8時～19時を示す。

評価
結果

騒音の予測地点は環境基準と比較した場合、**現況でもN2、N3における道路交通騒音は環境基準と同等または環境基準を上回っているが、工事用車両の運行に伴う騒音レベルの増加は、予測を行った2地点とも1dB未満の増加になることから、工事用車両の運行に伴う騒音の影響の程度は小さいものとする。**振動は基準とした要請限度を下回る。

保全
措置

- 工事用車両の**エコドライブ**の推進
- 工事用車両の**始業前の点検**

予測・評価：騒音・振動

供用時

施設の稼働に伴う騒音・振動の影響

予測
結果

騒音 施設	地点	騒音 予測結果	規制基準(第4種区域)		
			昼間 8時～18時	朝6時～8時 夕18時～22時	夜間 22時～翌6時
焼却施設 (24時間の値)	最大地点	54 dB	70 dB以下	60 dB以下	55 dB以下

振動 施設	地点	振動 予測結果	規制基準(第4種区域)	
			昼間 8時～19時	夜間 19時～翌8時
焼却施設 (24時間の値)	最大地点	59 dB	65 dB以下	60 dB以下

評価
結果

施設の稼働に伴う工場・事業場の騒音・振動レベルは、敷地境界の最大値で規制基準値以下となる。

保全
措置

- 送風機や蒸気タービン発電機等の大きな音が発生する機器類の建屋内配置及び二重壁や内壁等への吸音材貼り付け
- 振動の発生源となる機器類の強固な基礎上への設置
- 低騒音低振動型の機器類の採用及び防音防振対策

環境影響評価
の手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

予測・評価：騒音・振動

環境影響評価
の手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

供用時

施設利用車両の運行に伴う騒音・振動の影響

予測
結果

騒音	予測地点	時間 区分	現況 騒音レベル (現地調査結果) (1)	予測騒音 レベル (2)	増加量 (2)－(1)	基準値
	N2(田辺低区配水池)	昼間	72 dB	72.1 dB	0.1 dB	70 dB
	N3(氷室低区配水場)	昼間	70 dB	70.4 dB	0.4 dB	70 dB

注. 昼間は6時～22時を示す。

振動	予測地点	時間 区分	現況 振動レベル (現地調査結果) (1)	予測振動 レベル (2)	増加量 (2)－(1)	基準値
	N2(田辺低区配水池)	昼間	51 dB	51.1 dB	0.1 dB	65 dB
	N3(氷室低区配水場)	昼間	41 dB	41.3 dB	0.3 dB	65 dB

注. 昼間は8時～19時を示す。

評価
結果

騒音の予測地点は環境基準と比較した場合、**現況でもN2、N3における道路交通騒音は環境基準と同等または環境基準を上回っているが、施設利用車両の運行に伴う騒音レベルの増加は、予測を行った2地点とも1dB未満の増加になることから、施設利用車両の運行に伴う騒音の影響の程度は小さいものとする。**振動は基準とした要請限度を下回る。

保全
措置

- ごみ収集車等の施設利用車両の**始業前点検の励行**
- ごみ収集車等の施設利用車両の**エコドライブの推進**
- ごみ収集車等が集中しないような**適切な運行管理、車両の分散**

環境影響評価
の手続

事業計画の
概要

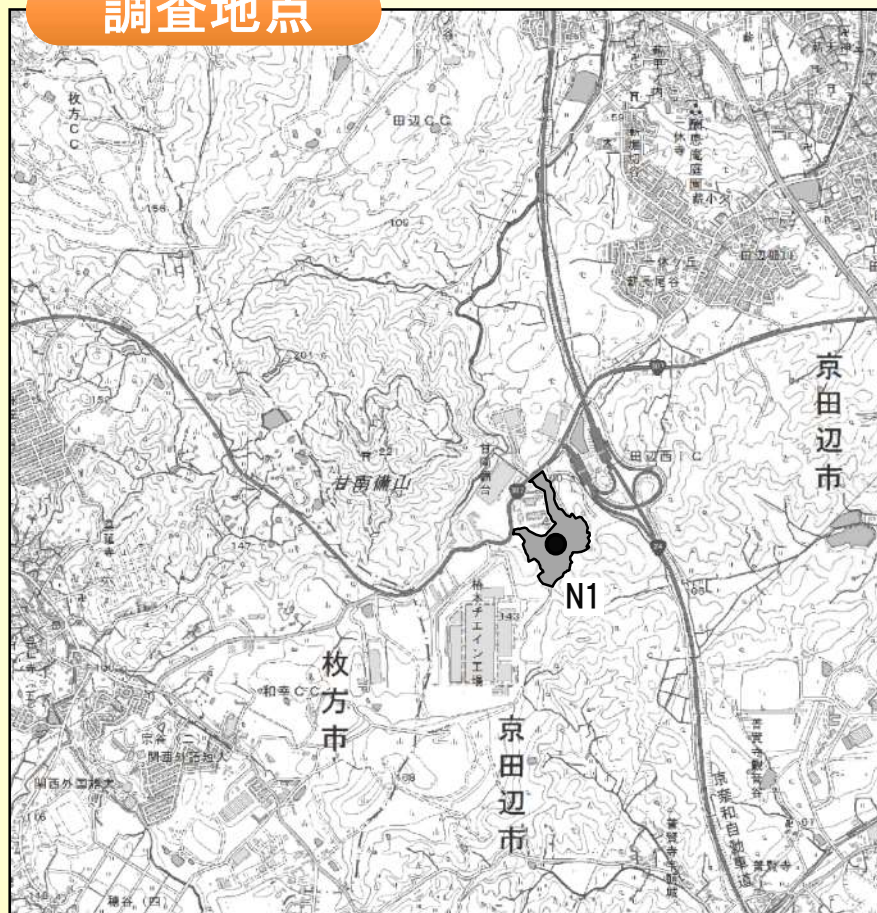
事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

調査地点



凡例

- 対象事業実施区域
- 低周波音調査地点(N1)

調査内容

【超低周波音】

N1 環境騒音・振動、超低周波音

2回(秋季:平日、休日)

調査結果

調査地点の低周波音は、参考値を下回っていた。



N1

予測・評価：低周波音

供用時

施設の稼働による低周波音の影響

環境影響評価
の手続

事業計画の
概要

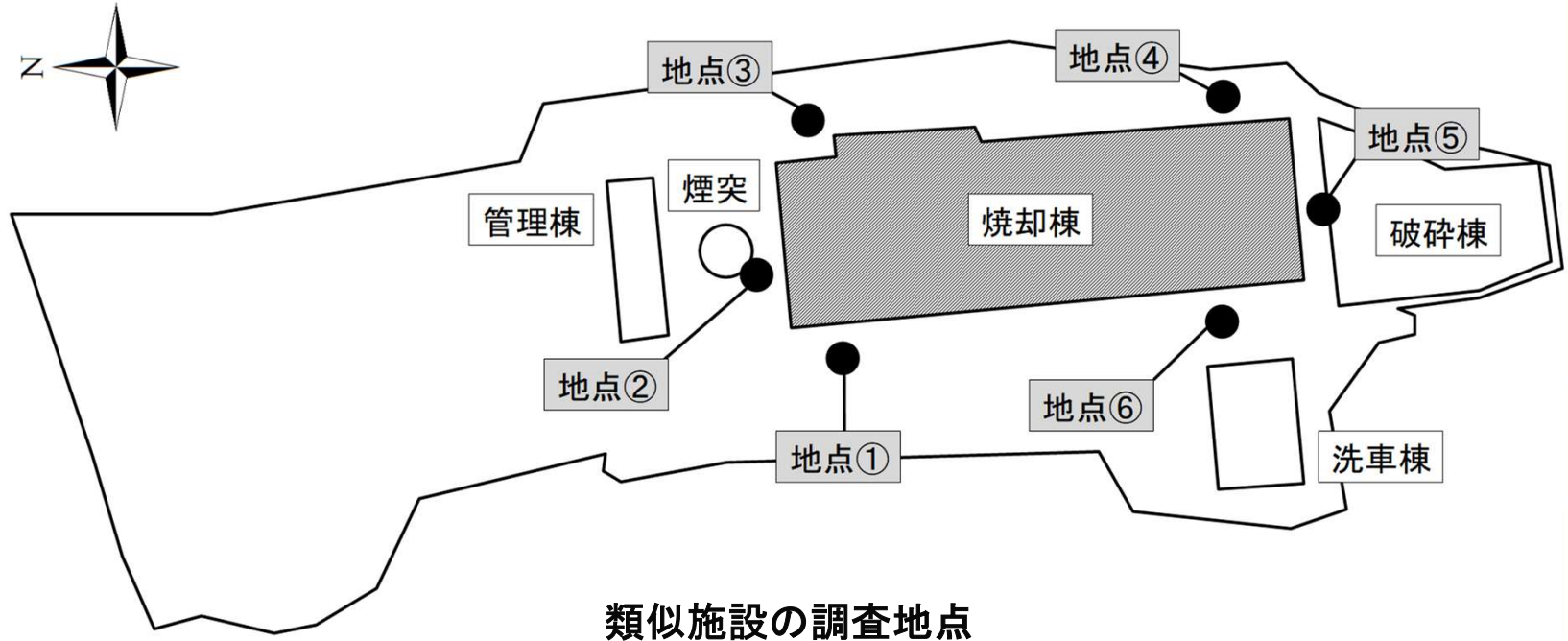
事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

項目	本事業の焼却施設	類似施設 (東部清掃工場)
規模	処理能力:168t/日	処理能力:240t/日
処理方式	焼却方式(ストーカ式)	焼却方式(ストーカ式)
建物構造等	構造:SRC造、S造 供用予定:令和7年度	構造:SRC造、S造 供用年月:平成20年12月



予測・評価：低周波音

供用時

施設の稼働による低周波音の影響

単位：dB

予測
結果

調査地点	低周波音圧レベル ^{注1}	
類似施設 (東部清掃工場)	地点①	85
	地点②	85
	地点③	82
	地点④	77
	地点⑤	78
	地点⑥	91
参考値レベル ^{注2}		100

注1. G特性5%時間率音圧レベル

注2. 環境保全に関する参考値(ISO 7196に規定されたG特性低周波音圧レベルとして、1~20HzのG特性5%時間率音圧レベル L_{G5} で100dB)

評価
結果

施設の稼働に伴う低周波音の予測結果(類似施設における低周波音圧レベル調査結果)は参考値を下回っていることから、新施設においても環境保全目標値を下回ると考える。

保全
措置

- ・ **低騒音・低振動型機器**の採用
- ・ 低周波音の発生源となる送風機、タービン、発電機、可燃性粗大ごみ処理装置などの**建屋内配置及び開口部の閉塞**
- ・ 設備機器の**整備、点検の徹底** 等

環境影響評価
の手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

現地調査：悪臭

環境影響評価
の手續

事業計画の
概要

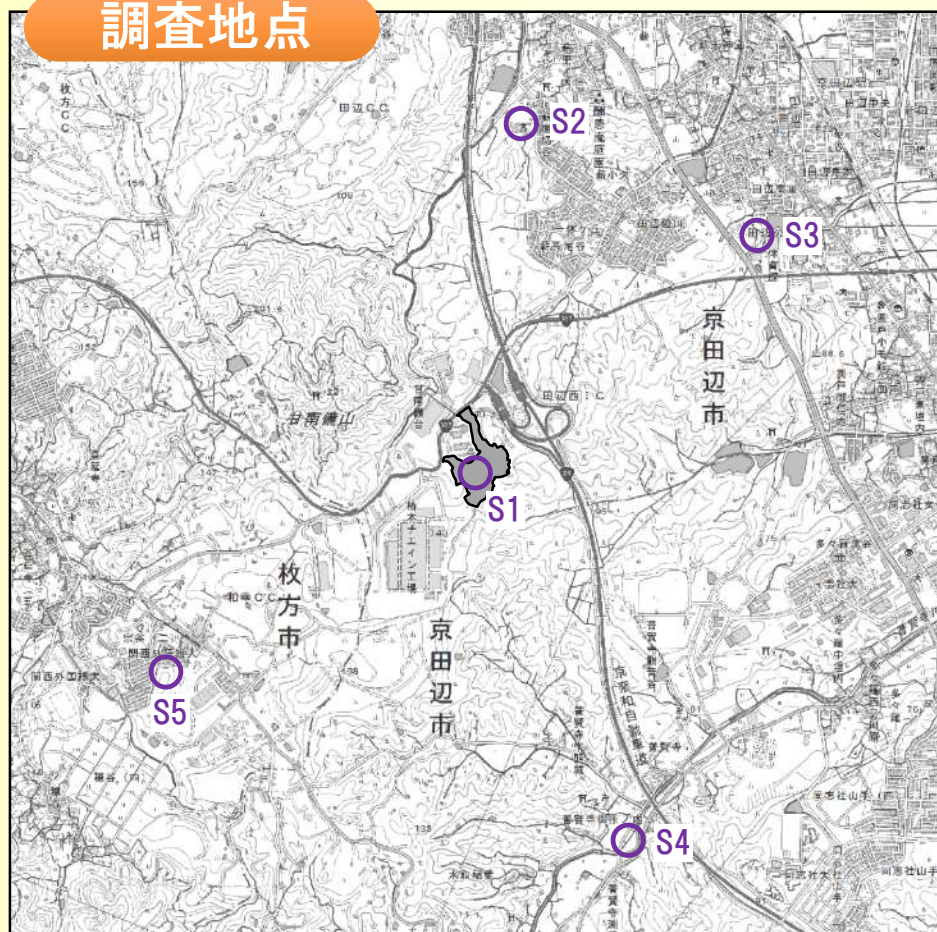
事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目



調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

調査地点



凡例

-  対象事業実施区域
-  悪臭調査地点 (S1～S5)
〔 特定悪臭物質濃度：S1
臭気指数：S1～S5 〕



調査内容

S1

特定悪臭物質濃度
(22物質)

S1～S5

臭気指数、気温、湿度、
風向、風速、天候

2回(夏季、冬季)

調査結果

特定悪臭物質の調査結果は、夏季、冬季ともに敷地境界規制基準を満足していた。

臭気指数の調査結果は、夏季、冬季ともに、すべての地点で10未満であった。



S1

環境影響評価
の手續事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

供用時

施設の稼働による悪臭の影響

予測
結果

気象条件	出現距離	臭気指数の 最大濃度	環境保全目標
一般的な気象条件時	730m	10未満	10未満
上層逆転層出現時	820m	10未満	
ダウンウォッシュ発生時	1,190m	10未満	
接地逆転層崩壊時	480m	10未満	

評価
結果

煙突排ガスによる悪臭の予測結果は、すべてのケースで臭気指数の最大濃度10未満であり、環境保全目標値を満足している。施設からの悪臭の漏洩は、同様の対策を実施している類似施設の臭気指数の調査結果がすべて10未満であったことから、適切な悪臭防止対策を施すことにより、環境保全目標を達成すると考える。

保全
措置

- プラットホーム出入口における自動開閉扉等の設置
- ごみピットへのごみ投入口における投入扉の設置
- ごみピット内の空気の燃焼用空気利用によるピット内の負圧保持
- 焼却温度850℃以上の維持による悪臭物質の熱分解 等

現地調査：水質

環境影響評価
の手續

事業計画の
概要

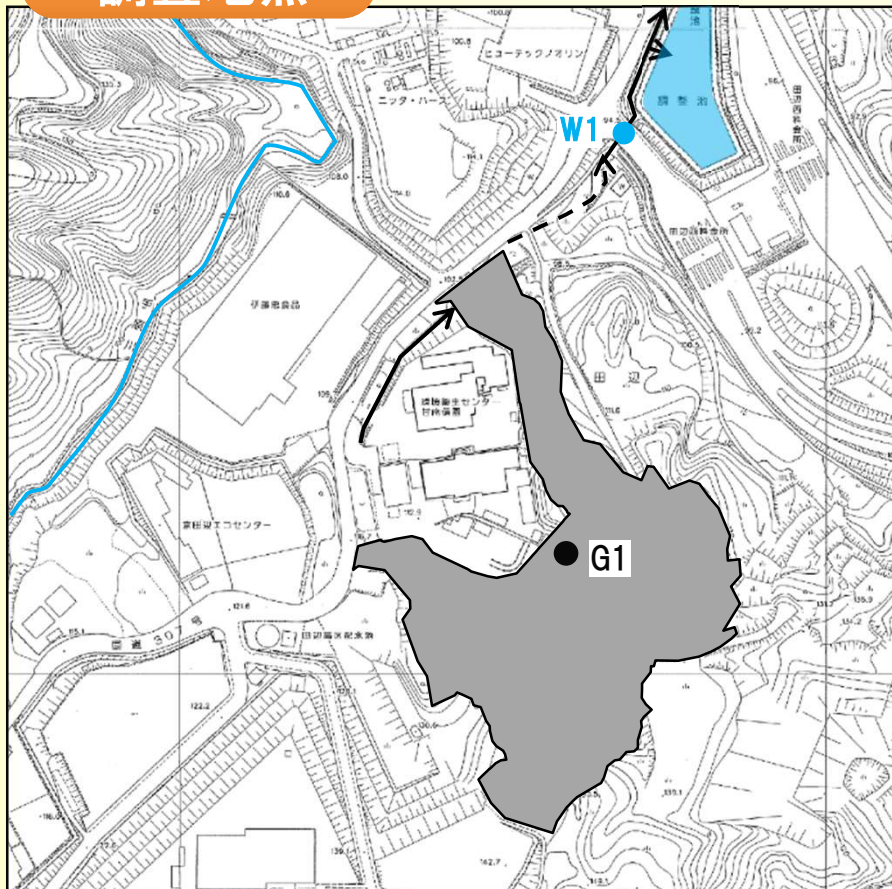
事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

調査地点



凡例

- 対象事業実施区域
- 水質調査地点(SS、濁度、透視度、流量)(W1)
- 土壌沈降試験調査地点(G1)
- 水路(開渠) 水路(暗渠)
- 河川 調整池



調査内容

【水質】

W1

降雨時の濁水(SS)、濁度、透視度、流量

降雨時2回

【土壌沈降試験】

G1

土壌の沈降特性

1回

調査結果

地点(W1)において、平成30年7月及び8月の降雨時に浮遊物質(SS)等の調査を実施し、最大値は、降雨量が20mm/hの際に64mg/Lであった。



水質調査



土壌沈降試験調査

環境影響評価
の手續事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

工事中

雨水の排水による水質の影響

予測
結果

項目	予測結果	環境保全目標値
浮遊物質質量(SS)	最大値 74mg/L	最大値 90mg/L
	日平均値 35mg/L	日平均値 70mg/L

評価
結果

対象事業実施区域の雨水が流入する沈砂設備は、各種マニュアルに準じて十分な濁水処理能力を有するものを設置することや、沈砂設備からの排水を放流する地点における浮遊物質質量(SS)上昇量の予測結果を勘案すると、対象事業実施区域からの濁水の発生によって、将来の河川水質に著しい変化はないものとする。

保全
措置

- ・ 沈砂設備の設置による雨水の一時的貯留、土砂沈殿
- ・ 造成法面の緑化による表土流出抑制
- ・ 台風や集中豪雨等が予想される場合の適切な沈砂設備への集水対応 等

環境影響評価
の手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

工事中

造成等の工事による一時的な
重要な地形・地質及び自然現象の影響予測
結果

重要な地形、地質及び自然現象の調査結果より、対象事業実施区域内には京都府レッドデータブック2015で重要な地形として指定されている京阪奈丘陵が存在しているが、造成等の工事による土地の改変の程度は丘陵の範囲と比較すると非常に小さい。

評価
結果保全
措置

- 重要な地形の改変を可能な限り低減できるような事業計画や工法等の検討
- 地形改変による盛土や切土部分によるがけ崩れ等の十分な対策

環境影響評価
の手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

工事中

造成等の工事による一時的な土壌汚染の影響

予測
結果

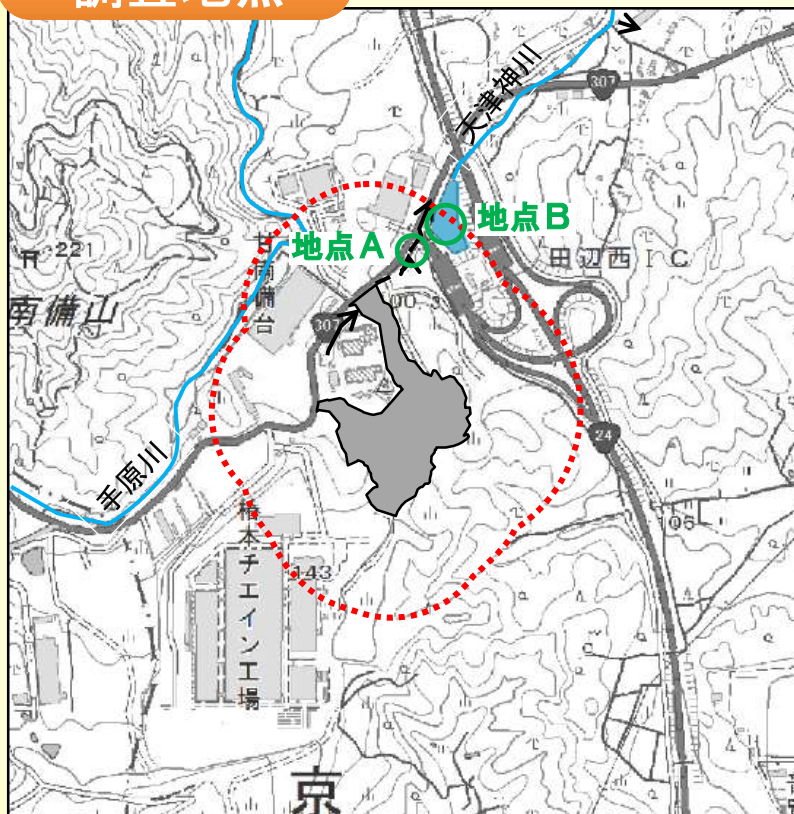
対象事業実施区域では、過去に土壌汚染のおそれがある施設等は建設されておらず、周辺にも土壌汚染の発生源となるような施設は存在していない。また、周辺には廃棄物が地下にある土地の指定区域が存在するが、当該区域の改変は行わないことから、造成工事、基礎工事等に伴う土砂の移動による土壌汚染の環境影響はないものとする。

評価
結果保全
措置





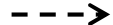


- 工事に先立つ土壌汚染対策法に基づく届出の実施
- 対象事業実施区域外へ土砂を搬出する場合の関係法令等を遵守した適正な処理・処分 等

環境影響評価
の手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

調査地点



凡例

-  対象事業実施区域
-  動物・植物・生態系調査範囲(周辺200m)
-  魚類、底生動物(地点A、地点B)
-  水路(開渠)  水路(暗渠)
-  河川  調整池

0 150 300 600
m

調査内容

【陸生動物、植物、生態系】

周辺 200m	哺乳類、鳥類、両生類・は虫類、 昆虫類
	植物相、植生

各動物・植物の生態・繁殖期にあわせた時期

【水生動物】

地点A、B 魚類、底生動物

4季に各1回

調査結果

対象事業実施区域及びその周辺で27科35種の注目すべき動物、3科3種の注目すべき植物を確認した。注目すべき種であるコクランは対象事業実施区域内外で確認された。



現地調査：猛禽類

環境影響評価
の手續

事業計画の
概要

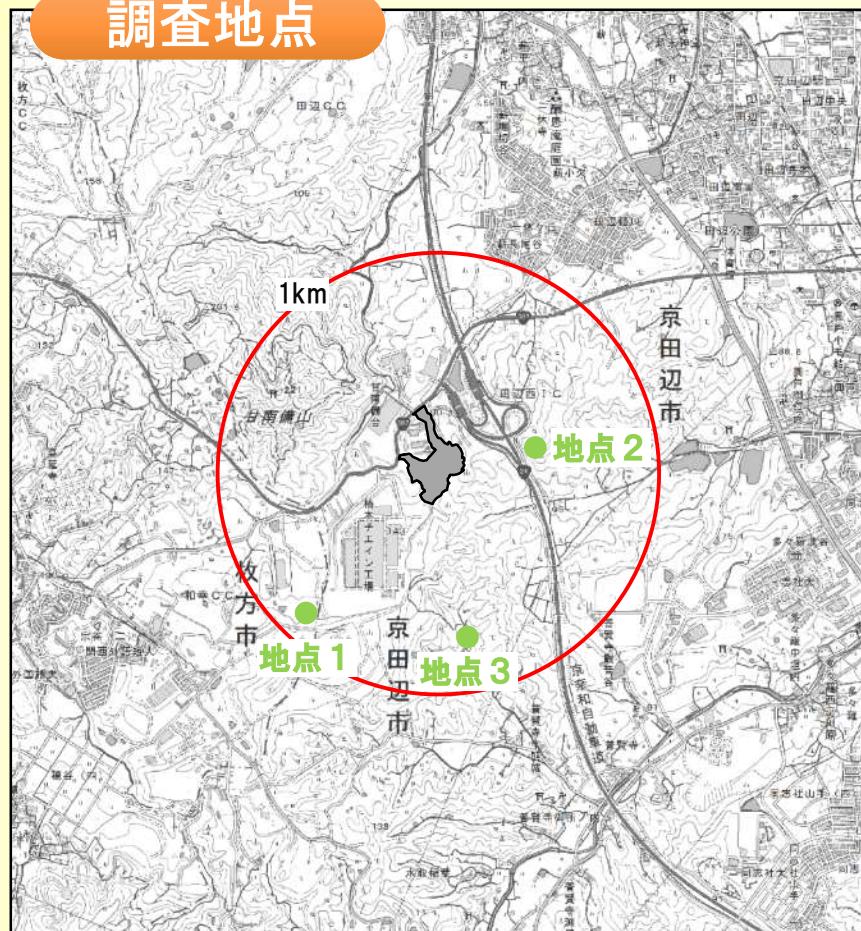
事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目




調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

調査地点



凡例

-  対象事業実施区域
-  猛禽類調査範囲(周辺1,000m)
-  猛禽類調査地点(地点1～地点3)

調査内容

【猛禽類】

地点1～地点3 猛禽類

繁殖期(1～8月)

調査結果

対象事業実施区域付近に注目すべき種であるオオタカの営巣が確認された。



予測・評価：動物・生態系

環境影響評価
の手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

工事中 造成等の工事による動物・生態系への一時的な影響

工事中 建設機械の稼働に伴う動物・生態系への影響

予測
結果

オオタカは対象事業実施区域付近に営巣が確認され、**直接改変による主要な生息環境への影響は小さいものの、騒音等の発生や視覚的な変化による影響があると予測された。**

評価
結果

オオタカ関連の対策として、以下の環境保全措置を実施することから、造成等の工事及び建設機械の稼働に伴うオオタカへの影響はできる限り回避・低減されている。

保全
措置

- ・ オオタカの敏感度が比較的低いとされる**巣外育雛期以降の工事着手**
- ・ 可能な限りオオタカの**巣から離れた場所からの施工開始**
- ・ 可能な限りオオタカの巣から離れた場所からの**求愛・造巢期～巣内育雛期**の施工開始
- ・ オオタカの繁殖活動への影響を可能な限り避けた造成工事とするための**工期延長**
- ・ 煙突上層部の**巣外育雛期以降の施工**等



予測・評価：動物、生態系

環境影響評価
の
手続

供用時

土地及び工作物の存在に伴う動物・生態系への影響

事業計画の
概要

供用時

施設の稼働に伴う動物・生態系への影響

事業実施区域
及び
周囲の概況

予測
結果

全ての注目すべき動物については、対象事業実施区域内に生息しない、又は、対象事業実施区域外に広く存在していることから、土地及び工作物の存在、及び施設の稼働による影響は小さいと予測する。

環境影響
評価項目

評価
結果

上記のことから、土地及び工作物の存在に伴う注目すべき動物への環境影響は、できる限り回避・低減されており、環境の保全についての配慮が適正になされている。

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

予測・評価：植物

環境影響評価
の
手続

工事中

造成等の工事による植物への一時的な影響

事業計画の
概要

供用時

土地及び工作物の存在に伴う植物への影響

事業実施区域
及び
周囲の概況

予測
結果

コクランが対象事業実施区域内外で確認された。対象事業実施区域内で確認された個体の生育地は改変される他、対象事業実施区域に近接した場所で確認された個体は、樹林や竹林の伐採により光環境や風環境が変化する可能性がある。よって、造成等の工事に伴う影響はありと予測する。

環境影響
評価項目

評価
結果

造成等の工事に伴う影響が予測された注目すべき植物(コクラン)に対する対策として、以下の環境保全措置を講じる。

調査・予測・
評価の結果

保全
措置

- 事業による影響を受けると予測されるコクランの事業影響外の類似生育環境への移植

今後の
スケジュール

現地調査：景観

環境影響評価
の手續

事業計画の
概要

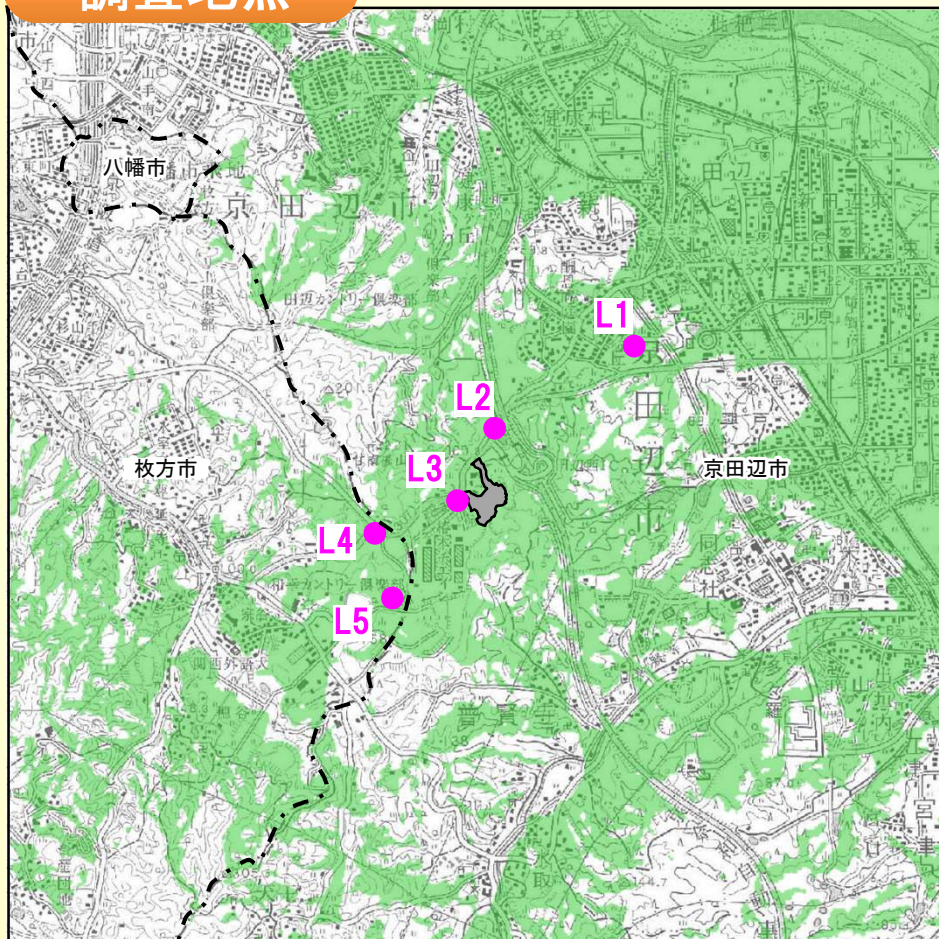
事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

調査地点



凡例



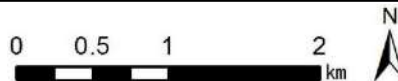
対象事業実施区域



景観調査地点(L1~L5)



煙突の可視領域^注



注：地形のみを考慮しており、建物や樹木による
遮へいは考慮していない。

調査内容

【景観】

L1~L5 眺望景観の状況

2季(着葉季、落葉季)



環境影響評価
の手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

供用時

土地及び工作物の存在による景観の影響

L1 一休ヶ丘第5公園

予測
結果

環境影響評価
の
手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

供用時

土地及び工作物の存在による景観の影響

予測
結果

L2 国道307号(田辺西インターチェンジ交差点)



環境影響評価
の
手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

供用時

土地及び工作物の存在による景観の影響

L3 国道307号西側(河内峠バス停)

予測
結果

環境影響評価
の
手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

供用時

土地及び工作物の存在による景観の影響

L4 国道307号沿道店舗(馬廻交差点)

予測
結果

環境影響評価
の
手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

供用時

土地及び工作物の存在による景観の影響

L5 枚方市東部公園

予測
結果
結果

環境影響評価
の
手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

供用時

土地及び工作物の存在による景観の影響

評価
結果

予測した5地点のうち、**地点L2～L5の4地点については眺望景観に変化が生じる**が、**地点L3以外の変化は小さく、事業の実施により現状の眺望景観を著しく変化させるものではない**と考えられる。
地点L3については、眺望景観に変化が生じるが、以下の環境保全措置を計画している。

保全
措置

- **地域景観と調和する建物・煙突の色彩やデザイン**
- **敷地内の積極的な緑化による周辺環境との調和**

環境影響評価
の
手続

事業計画の
概要

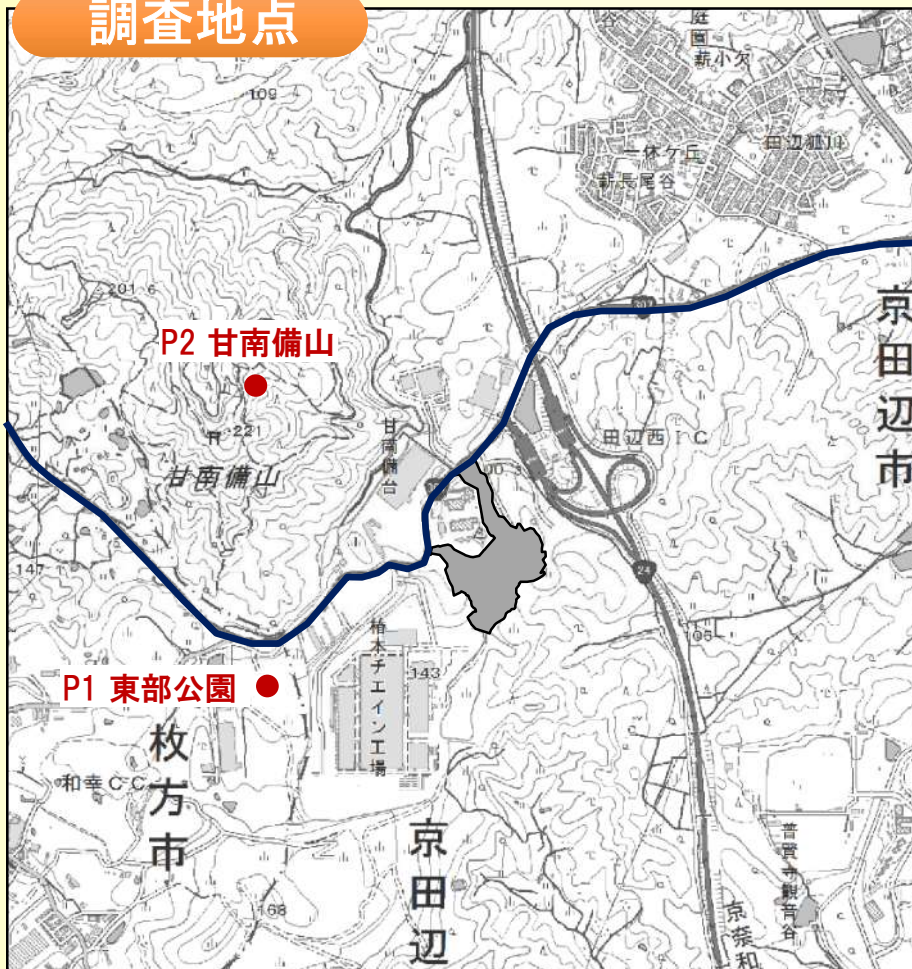
事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

調査地点



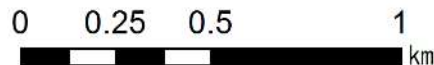
凡例



対象事業実施区域



人と自然との触れ合いの活動の場調査地点(P1、P2)



調査内容

【人と自然との触れ合いの活動の場】

P1、
P2

主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布、概況、利用者数、利用状況、利用環境等

2回(平日、休日)



P1 東部公園



P2 甘南備山

調査結果

枚方市東部公園の平日と休日の利用者数は下表のとおりである。

調査日 時間	休日(平成30年10月14日(日))		平日(平成30年10月17日(水))	
	入場人数	退場人数	入場人数	退場人数
合計	1,133 ^注	826	149	103

注. 休日では9:00時点で149人(野球によるグラウンド利用)の入場者が確認された。

目的 日時	野球	ドッグラン	遊び	休憩	散歩	展望	昼食	その他
休日	3	13	20	4	1	2	9	虫取り 1
平日	0	13	12	1	5	1	2	遠足の下見 1 健康遊具 1
合計	3	26	32	5	6	3	11	3

注. 上表はヒアリングにより把握した利用目的別の人数を示す。



野球場の利用状況



遊具の利用状況



ドッグランの
利用状況

環境影響評価
の手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

調査結果

甘南備山の平日と休日の利用者数は下表のとおりである。

調査日 時間	休日(平成30年10月14日(日))		平日(平成30年10月17日(水))	
	入場人数	退場人数	入場人数	退場人数
合計	131	123	47	47

日時	目的	遊び	休憩	散策 山歩き	神社参拝	展望	その他
休日		1	2	15	11	13	虫取り 1
平日		0	3	16	9	10	食事 1 踊り 1 コミュニケーション 1
合計		1	5	31	20	23	4

注. 上表はヒアリングにより把握した利用目的別の人数を示す。



園路等の利用状況



展望台の利用状況



神社参拝状況

環境影響評価
の手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

工事中

工事用車両の運行による主要な人触れの場への影響

予測
結果

工事用車両の運行による快適性の変化は小さく、事業の実施にあたっては以下の保全措置を実施する。

評価
結果保全
措置

- 工事用車両の**エコドライブの徹底**
- 工事用車両が集中しないような**適切な運行管理、車両の分散**
- 工事用車両の**始業前点検の励行**

環境影響評価
の手續事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

供用時

新たな工作物の出現に伴う主要な人触れ活動の場への影響

予測
結果

施設の存在による快適性の変化は小さく、また、事業の実施にあたっては、以下の環境保全措置を実施する。

評価
結果保全
措置

- ・ 地域景観と調和する建物・煙突の色彩やデザイン
- ・ 敷地内の積極的な緑化による周辺環境との調和

供用時

施設の稼働に伴う主要な人触れの場への影響

供用時

施設利用車両の運行による主要な人触れの場への影響

予測
結果

施設の稼働及び施設利用車両通行による快適性の変化は生じず、また、事業実施にあたっては、以下の環境保全措置を実施する。

評価
結果保全
措置

- ・ 施設の稼働における大気質、騒音、振動、悪臭の環境保全措置の実施
- ・ 施設利用車両の通行における大気質、騒音、振動の環境保全措置の実施

予測・評価：廃棄物

環境影響評価
の手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

工事中

工事の実施に伴い発生する廃棄物等の影響

予測
結果

区分	発生土 (掘削土・切土)	盛土	場内再利用土	残土	処理等の方法
基盤造成	239,000m ³	54,800m ³	—	184,200m ³	残土発生量を軽減 するよう、対象事業 実施区域内の盛土 材として極力再利用 するほか、余剰分につ いては、他の公共 工事などへの活用 に努める。
施設建設	24,500m ³	—	7,000m ³	17,500m ³	
合計	263,500m ³	54,800m ³	7,000m ³	201,700m ³	

評価
結果

残土については工事の実施による影響を低減するため、以下の環境保全措置を計画している。

保全
措置

- 工事の実施に伴う発生土の**対象事業実施区域内における盛土材としての再利用**
- 余剰発生土の**他の公共工事などへの活用**
- **仮置土砂の飛散防止等の周辺環境への配慮**

予測・評価：廃棄物

環境影響評価
の手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

工事中

工事の実施に伴い発生する廃棄物等の影響

予測
結果

種類		単位	発生量	処理等の方法	
廃プラスチック類		t	70	産業廃棄物処理業者 に委託処理	最終処分場に埋立
木くず		t	1,600		
紙くず		t	60		
金属くず		t	70	製鉄等原料として売却	再資源化
がれき類	コンクリート破片	t	130	産業廃棄物処理業者 に委託処理	
	アスファルト・ コンクリート破片	t	60		
	その他のがれき類	t	60		
その他(混合廃棄物)		t	200		最終処分場に埋立

評価
結果

建設工事に伴い発生する廃棄物については、以下の環境保全措置を計画している。

保全
措置

- 環境に配慮した材料の積極的な導入及び建設現場での廃棄物等の発生抑制
- 建設廃棄物等を搬出する際に関係法令を遵守した適正処理
- 可能な限り再資源化に努める 等

予測・評価：廃棄物

環境影響評価
の手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

供用時

施設の稼働に伴い発生する廃棄物等の影響

予測
結果

種別	単位	発生量	処理等の方法
焼却灰	t/年	3,175	「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」や「ダイオキシン類対策特別措置法」を遵守し、国が定めた安定化処理を行った後、最終処分する。
飛灰	t/年	2,287	

評価
結果

本事業では、施設の稼働に伴い発生する廃棄物の発生を極力抑制するとともに、以下の環境保全措置を講じる計画である。

保全
措置

- 京都府や大阪府の**循環型社会を構築するための基本方針**に留意した適正な**廃棄物資源化の推進**や**処理**
- 焼却灰等の飛散防止に留意した**焼却灰と飛灰の分離貯留**
- 施設の維持管理や管理事務に伴い発生する廃棄物の発生量の抑制
- 廃棄物の有効利用を推進するための**分別排出の徹底**

予測・評価：温室効果ガス

環境影響評価
の
手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

工事時

建設機械の稼働及び工事用車両の運行に伴い発生する温室効果ガス等の影響

単位:t-CO₂/工事期間

予測
結果

発生行為		使用燃料等		CO ₂ 総排出量
工事 の 実 施	建設機械の稼働	軽油使用量(L/工事期間)	1,248,536	3,227
	工事用車両の運行 (大型車)	軽油使用量(L/工事期間)	34,014	87
		運行距離(km/工事期間)	211,907	2.9
	工事用車両の運行 (小型車)	ガソリン使用量(L/工事期間)	47,634	111
		運行距離(km/工事期間)	914,565	0.9
	計			

評価
結果

工事期間中の温室効果ガスの排出量は、3,430t-CO₂となり、京都府全体の温室効果ガスの年間排出量1,206万t-CO₂(2017年度)と比べると、約0.03%である。また、工事の実施にあたっては以下の環境保全措置などを講じる計画である。

保全
措置

- 再生利用が可能な資材の使用、低炭素型建設機械の使用
- 「グリーン購入法」に基づく物品の調達等に配慮した積極的な省エネルギー型設備・機器の導入
- 建設機械や工事用車両の始業前点検の励行
- 工事用車両が集中しないような適切な運行管理、車両の分散、エコドライブの推進
- 工事用車両の過積載防止

予測・評価：温室効果ガス

供用時

施設の稼働及び施設利用車両の運行に伴い発生する温室効果ガス等の影響

単位：t-CO₂/年

予測結果	発生行為・使用燃料等		活動量	CO ₂ 総排出量
施設の供用	施設の稼働	ごみ焼却量(湿重量)(t/年)	41,794	707
		プラスチック類の量(乾重量)(t/年)	5,737	15,891
		合成繊維の量(乾重量)(t/年)	1,514	3,467
		助燃料(灯油)の量(L/年)	98,850	246
		消費電力量(kWh/年)	6,222,000	2,190
		発電量(kWh/年)	22,915,200	-8,066
		計		14,435
	ごみ搬出入車両の走行	軽油使用量(L/年)	281,398	726
		運行距離(km/年)	1,778,440	24
		計		750
		合計		

評価結果

施設の供用に伴う温室効果ガスの排出量は、15,185t-CO₂と予測された。この内、発電による温室効果ガスの削減分は、8,066t-CO₂となり、発電しない場合から約36%の削減効果と試算される。また、以下の**保全措置**を講じる計画である。

保全措置

- 「グリーン購入法」に基づく物品の調達等に配慮した**積極的な省エネルギー型設備・機器の導入**
- 焼却に伴う熱を利用した発電**による施設内電力の消費、余剰電力の売却、施設に必要な熱源としての利用
- 太陽光発電設備等の**再生可能エネルギーの活用**
- ごみ質や燃焼温度の適正管理**、助燃料の消費量の低減
- ごみ収集車等の**施設利用車両の整備・点検**、高負荷運転防止等の徹底

環境影響評価
の
手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

予測・評価：温室効果ガス

環境影響評価
の
手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

供用時

施設利用車両の運行及び施設の稼働に伴い発生する温室効果ガス等の影響

単位：t-CO₂/年

予測 結果	項目	区分	計	現状からの増減量
			(t-CO ₂)	(t-CO ₂)
現状		施設利用車両の運行	561	—
		施設の稼働	28,367	
		計	28,928	
本施設供用時		施設利用車両の運行	750	+189
		施設の稼働	14,435	-13,932
		計	15,185	-13,743

評価
結果

施設の稼働に伴う排出量が現状より13,932t-CO₂削減され、施設利用車両の走行距離増加に伴う温室効果ガスの増加量189t-CO₂を含めても、**供用時の温室効果ガス排出量は現状に比べ13,743t-CO₂削減される結果となる。**

環境影響評価
の
手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

【事後調査を実施する項目】

大気質

施設の稼働に伴う影響は、**地域の方々の関心が高いことや予測の諸元に不確実性が若干ある**ことを勘案し、一般環境大気質に関する事後調査を実施する。

騒音

土地又は工作物の存在及び供用に伴う影響については、現況を著しく悪化させないと予測される。しかしながら、**現況で施設利用車両走行ルート沿道の騒音レベルが環境基準を超過している**ことを勘案し、道路交通騒音に関する事後調査を実施する。

動物・
生態系

造成等の工事及び建設機械の稼働に伴うオオタカへの影響に対して、環境保全措置を講じる。**環境保全措置の効果には不確実性がある**ことから、工事期間中及び工事完了後1年目の事後調査を実施する。

植物

造成等の工事に伴うコクランへの影響に対して、環境保全措置を講じる。**環境保全措置の効果には不確実性がある**ことから、事後調査を実施する。

景観

土地又は工作物の存在及び供用に伴う景観への影響については、**新たな施設の出現によって一部の眺望景観に変化が生じる**ことを勘案し、事後調査を実施する。

環境影響評価
の
手続

事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール

今後のスケジュール

今後のスケジュール

環境影響評価
の
手続

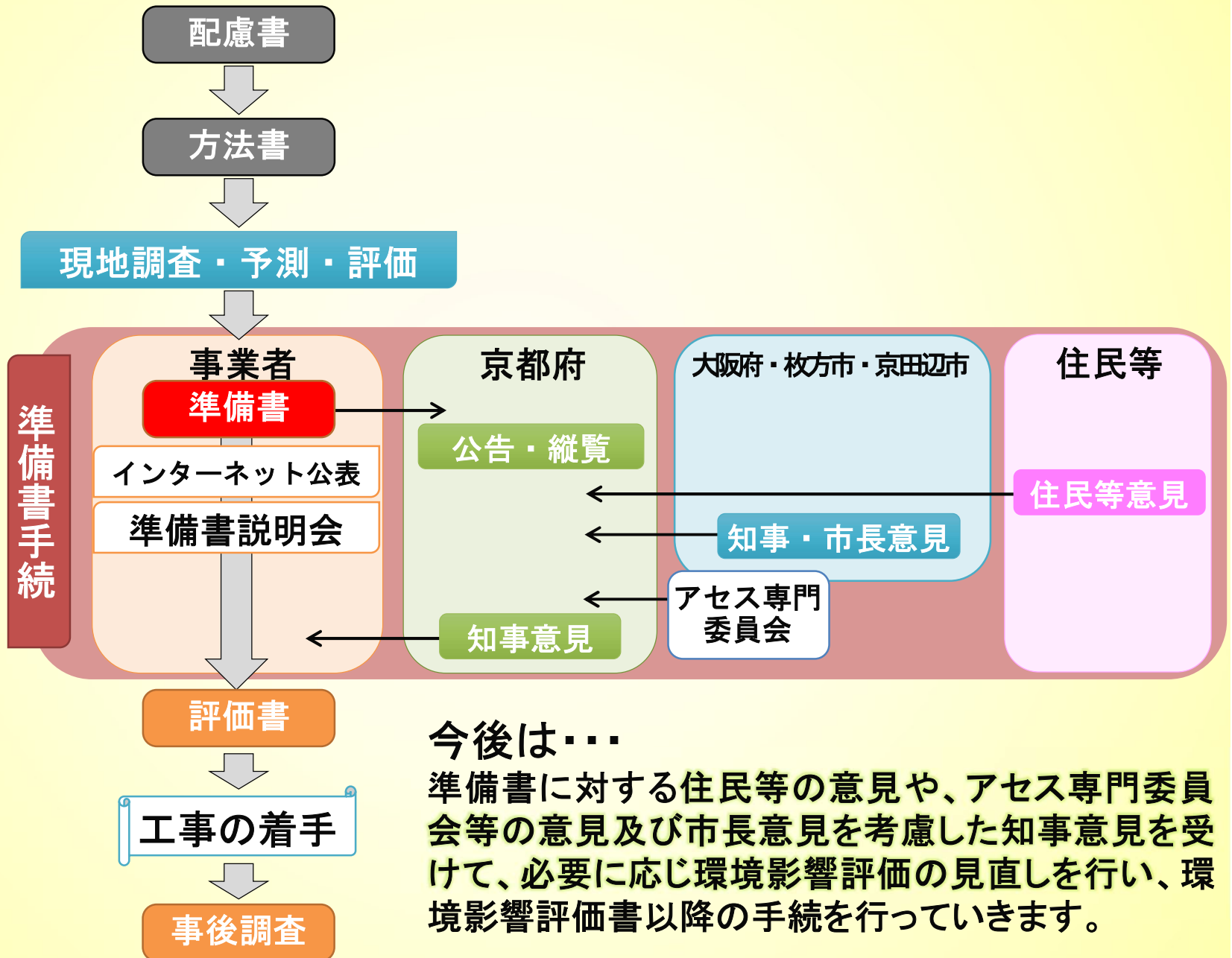
事業計画の
概要

事業実施区域
及び
周囲の概況

環境影響
評価項目

調査・予測・
評価の結果

今後の
スケジュール



今後は...

準備書に対する住民等の意見や、アセス専門委員会等の意見及び市長意見を考慮した知事意見を受けて、必要に応じ環境影響評価の見直しを行い、環境影響評価書以降の手続を行っていきます。

環境影響評価
の手続事業計画の
概要事業実施区域
及び
周囲の概況環境影響
評価項目調査・予測・
評価の結果今後の
スケジュール

意見書の提出

記載する事項

- ①意見書を提出しようとする者の氏名及び住所
(法人その他の団体にあつては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地)
- ②意見書の提出の対象である対象事業の名称
- ③準備書の内容についての環境の保全及び創造の見地からの意見

提出期間

令和2年5月8日(金)～6月22日(月)

提出先〒602-8570 京都府京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町
京都府府民環境部 環境管理課 指導係 TEL:075-414-4715提出方法

書面の郵送、持参又は京都府のホームページから電子申請による提出

<http://www.pref.kyoto.jp/assessment/>

ご清聴ありがとうございました

— 本事業に関するお問い合わせ・連絡先 —

枚方京田辺環境施設組合

〒573-0112 大阪府枚方市大字尊延寺2949番地
(枚方市東部清掃工場内)

TEL:072-896-1570 FAX:072-896-1571